日本国際経済学会第70 回全国大会

報告要旨(ポスターセッション)

**報告論題：EU広域経済圏の形成と金融FDI**

**－モロッコ銀行セクターを中心に－**

九州大学　高﨑　春華

　東方拡大以降、地中海地域はEU域内市場の新たなフロンティアとして脚光を浴びつつある。歴史的に見た場合、EUの対地中海関係は、1960年代からのEC/EU地中海政策のもとで発展してきたが、95年に開始された「バルセロナ・プロセス」により新段階を迎えている。これまで、中東欧における「FDI導入指向型経済発展」の一定の成功は、95年からの新段階の地中海政策のもとで国内経済改革を推進する地中海諸国に大きなインパクトをもたらしてきた。2008年以降、FDI流入の一時的な落ち込みが観察できるものの、金融危機の影響が比較的軽微であった一部地中海諸国、とりわけモロッコでは、EU地中海政策に呼応した国内経済改革とEUへの制度的接近が引き続き追求されている。当該エリアでは、自動車産業を中心にEU系企業からのFDI流入が急増し、「欧州生産ネットワーク」の南方への伸展が開始されている。

　2000年代、EU先進諸国所在の多国籍銀行による金融部門への直接投資(金融FDI)を通じて、多国籍銀行のネットワークに包摂され、現地の銀行市場の所有構造に顕著な変化が生じてきた。地中海エリアにおいては、中東欧諸国と同様に金融分野でもEUからのFDIが始まっているため、「生産ネットワーク」と並行した「金融ネットワーク」形成について見極める必要がある。本報告では、地中海エリアで進む、こうした「金融ネットワーク」形成の現状について、EU系金融機関の現地展開を精査することで全体像解明の第一歩にしたい。

そのために、第1に、これまでの地中海政策の変遷を概括する。第2に、95年以降の地中海諸国の金融セクターの展開を把握する。とりわけ、「経済・金融パートナーシップ」を掲げる「バルセロナ・プロセス」のもと、EU法制への接近を通じて金融セクターの改革を推進するモロッコの政策動向を整理する。第3に、EU系金融機関による地中海諸国向け金融FDIのうち、モロッコへの展開に注目し、同国の銀行セクターにおける展開について明らかにする。具体的には、外国銀行の参入と現地での業務展開に注目しながら考察を進める。

以上により、EU加盟を前提としない一部地中海諸国に向けて、新たにEUの「金融ネットワーク」形成が進展しつつあることを示すことができればよいと考える。